

全体総括

○計画期間；平成19年5月～平成24年3月（4年11月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、「賑わいの創出」「歩いて暮らせる地域の形成」を目指して各事業を実施したところ、減少傾向にあったまちなかの人通りが増加し、回遊・集客の拠点整備や道路の整備によって回遊性は向上し、目標とした歩行者・自転車通行量の一日あたり5,600人は、218人上回る結果となり、目標を達成し、賑わいが創出された。これによって、まちなかに人が集まり、笑い声があふれ、まちに明るさと活力を生み出した。さらには結果として、まちなかの魅力発信につながったことにより、事業計画には掲げていないが、まちづくり団体の設立、遊休地の有効活用が図られるなど、多くの波及効果が得られた。

効果的な事業として2点あげられる。1点目はJT府中工場が撤退した後、大規模に発生した空地に、周辺に位置していた4小学校と、まちなかにあった中学校を統合することで建設した、小中一体型校舎「府中小学校・府中中学校（愛称 府中学園）」の開校である。府中学園の開校により、中心市街地は朝の登校、夕方の下校時には多くの児童生徒で賑わい、まちなかに活気を生み出した。また、地域住民と子どもが交わす挨拶は、まちなかに不足しがちなコミュニケーションを生み出し、賑わいに寄与した。更に、子どもの「健全・育成」のため、地域住民による「子ども見守り隊」も結成され、人通りはもちろんであるが、まちなかの防犯活動にも好影響をもたらした。

また、府中市が取り組む小中一貫教育の柱となる「府中学園」は、通学圏内（中心市街地活性化計画区域）への居住促進の起爆剤となり、入学目的で学校周辺へ転入（転居）したという声も聞かれた。背景には、9年間を見通した教育（小中一貫教育）、具体的には小学校から中学校へ入学する際の環境の大きな変化に対応しきれない生徒（中1ギャップ）の解消に対する保護者の期待が大きいことが伺える。このことから、教育環境の整備及び充実は、まちなかの活性化に必要不可欠な要素であることが言える。

2点目は、国登録の有形文化財である老舗割烹旅館「恋しき」の保存・再生事業である。先に述べた府中学園の南側に位置し、周辺環境整備により、一帯に老若男女を問わず多くの人が集い、中心市街地に不足していた交流の場としての賑わい空間を創出することができた。また、施設周辺の道路整備によって歩行者や自転車の回遊性は向上し、集客や回遊の拠点とすることができた。集客力・回遊性向上の相乗効果で、整備した多目的広場では、毎月第4日曜日に開催される「新鮮朝市」等、郊外とまちなかの交流事業として好評を博し、着実に来場者も増加している。そのほかにも、多目的広場や府中学園を利用したイベント事業（「食で賑わう町おこし事業」・「子育て応援事業」等）も、年々来場者を増やし、盛況を博している。

これらの事から1期計画を終了し、府中駅北地区を中心として、歩行者・自転車通行量も増加し、商店数の増も達成でき、まちなかの賑わいを活性化させることができた。1期総括として検証するうえで、それ

それぞれの事業は完了し、にぎわい創出により中心市街地を活性化させることができた。第1期計画の中で取り組んだJR府中駅周辺整備計画策定に関連する街路交通調査の中でも「JR府中駅を中心とした新たな回遊と賑わいを創出し、まちの交流拠点を形成する」とされていることから、第2ステップとして府中駅周辺の整備を図る。具体的には、周辺の道路整備を行い、歩行者が安心安全で歩ける空間を形成し、周辺の民間商業施設の再編を行うことで、賑わいを創出し、歩いて暮らせる賑やかな駅南地区へと改良する。将来的には北地区と南地区の歩行者ネットワークが形成され、JR福塩線の南北の交流がスムーズで、中心市街地全体が活性化した生活空間の実現が、府中市が目指すコンパクトシティ(生活中心街)の姿であり、周辺集落の生活も支えることの出来る中心市街地である。第1期計画で策定したJR府中駅周辺整備計画等の計画の実行には、第2期の計画策定が必要になる。更には、早期の実現のためには、第2期中心市街地活性化基本計画の認定が必要であり第2期の認定を目指す。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

計画していた事業は、予定していた22事業のうち、21事業を実施し、概ね遅滞なく実施する事が出来た。残事業については、計画期間は終了したが、現在も継続実施しており、平成24年度中の事業完了を目指し、取り組んでいる。

各種取組により、まちなかの賑わいは確実に戻ってきていると感じられる。歩行者・自転車通行量も増加し、商店数も商店主の高齢化と後継者不足の問題によって閉店する商店が年々増加している中、新規開業する店舗が上回り、結果的には目標としていた商業集積地の商店の数を計画期間終了時の店舗数も目標の256店舗を1店舗上回る結果が残せ、目標を達成できた。これらにより、まちなかに活気が戻り、十分な成果を得たと総合的に評価できる。一方、商店の質向上のための顧客の満足度調査アンケートからは目標値までに至らなかったものの、「中心市街地が活性化していると感じていますか」「これからも住みたい街ですか」といった質問に対しては、そう思うという意見が5年間の基本計画期間で少しではあるが増加しており、目標に匹敵する成果が表れたと言える。

また、依然として少子高齢化による自然減や、区域から区域外への転出の方が上回っているが、「恋しき」の保存・再生、石州街道・出口地区の修景事業により地域住民がまちづくりへ積極的に関わることにより、賑わいの創出が図られ、府中学園の開校に伴う教育環境整備により、市内外からも注目され、子どもの入学を希望する声も聞かれるなど、まちなかの魅力は向上し、年々マイナス幅は減少している。目標値は5年間の平均値としていたため、ほとんど成果がないように見える。しかし、直近の数値を見ると、事業効果を感じ取ることができ、現在マイナスとなっている人口動態(社会動態)もプラスに転じる事も可能と考えられる。

特筆すべきこととして、「府中学園」の周辺整備をはじめとする第1期中心市街地活性化基本計画の効果は大きく、まちに明るさと活気が溢れ、十数年前まで行われていた土曜縁日の「夜店(よみせ)」の復活や「18日マルセ」等の新たなイベントが生まれ、幅広い世代から好評を博している。何よりも、住民が中心市街地を自分たち自身で盛り上げる「ステージ」とする気運が高まったことが最大の成果と言える。また、まちおこしを目的とするNPO法人の設立も見られ、活性化への気運の盛り上がりを感じる事が出来、中心市街地の活性化は図られた。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(府中市としての見解)

府中市においては、多くの人まちづくりに関わったことによって、活性化に対する気運が高まり、計画を概ね順調に実施することが出来た。特に核事業でJT府中工場跡地に建設した小中一体型校舎は、府中市が取り組む「小中一貫教育」のモデル校として開校した。それにより、市内外からも注目され、周辺地域の賑わいはもとより、イベント事業の中心的施設として位置付けることができた。何よりもまちなかに学校があるため、登下校する児童生徒と地域住民とのコミュニケーションも図られ、賑わいが生まれただけでなく、「地域の宝である子どもを守ろう」という気運も高まり、子ども見守り隊も結成され、防犯活動にも繋がったことは言うまでもない。国登録の有形文化財である老舗割烹旅館「恋しき」の保存・再生事業も、企業・団体による「恋しきを再生させたい」という熱い思いがあったからこそ実現できたと言っても過言ではない。またそれを希望した多くの市民に支持されたことで、賑わいの創出効果が生まれた。

賑わいの創出によるまちなかへの期待感から年々開店する店も増加し、総数において増加とすることが出来た。しかしながら、経営者の高齢化と後継者不足からやむなく閉店する商店も増加傾向にあるのも現実であり、今後、店舗継続への支援と新規店舗誘致への取り組みが必要である。

商店の質に関しては目標達成に至らなかった。質の調査については、商店の満足度とし、毎年住民アンケートを各戸に配布して実施したが、調査結果を分析するとアンケート回答者のほとんどが、世帯主である60歳以上の男性に回答が偏り、幅広い年齢層から回答を得ることが出来なかった。回答にも毎年行うアンケートに対する嫌悪感がストレートに書かれた意見が多く、評価というよりもアンケートそのものに対する意見が目立つ結果となった。一方で、「中心市街地が活性化していると感じていますか」「これからも住みたい街ですか」といった質問に対しては、そう思うという意見が増えており、事業の成果と言える。アンケートの方法も含め、満足度の把握方法に工夫が必要であったと言わざるを得ない。満足度の把握は今後も必要であるため、幅広い年代で、男女のバランスのとれた意見集約を実施する必要がある。

同じく、目標を達成することの出来なかった人口動態(社会動態)については、計画期間中の平均値を目標としていたため、数値の改善はほとんど現れていないが、年度毎の数値に着目すると、改善は見られる。効果の検証を困難にさせている目標設定であり、今後、目標設定の変更を検討する必要がある。また、効果はみられるものの、依然として中心市街地から流出傾向が続く人口動態の改善には、更なる、まちなかへの魅力創出の施策が必要である。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

府中市中心市街地活性化協議会は、府中市が基本計画の認定を受けた後の、平成19年9月に設立された。設立後、活動し汗を流す協議会を目指して、協議会内でワークショップを開催し、翌年5月に、「企業参加」「歴史文化」「まちなか美化」「市民コミュニティ」の4委員会を設置。それぞれの委員会でソフト事業を展開した。

「企業参加委員会」は、ものづくりの町“府中市“の特性を活かし、企業として何ができるかを考えた結果、平成20年度から、町の中心部を舞台に府中の産品を安く提供するアウトレット祭りを開催した。初年度8,000人の来場者が、平成23年度には22,000人に増加するなど、盛大なイベントとなり、中心市街地の活性化に寄与した。

「歴史文化委員会」は、恋しきや石州街道出口通りなど歴史的な建物を活かした中心市街地活性化を

目指し、平成20年度に「府中まち歩きマップ」を作成。平成22年度からは、歴史的建物などを見学する「府中まち巡りウォーク」を実施した。

「まちなか美化委員会」は、中心市街地の環境整備などについて企画。平成20年度に、府中駅にアジサイの植樹。平成22年度からは、「花の寄せ植え教室」を開催するとともに、商店街に花のプランターを設置した。

「市民コミュニティ委員会」は、市民のまちづくり活動への参画を促進する活動を展開した。平成20年度から、まちづくりに関心のある人を集め、ワークショップ形式でまちづくりについて意見交換する「まちづくり交流会」と、市民のまちづくりに対する意識を高めるための「まちづくり講演会」を開催した。こうした取り組みをきっかけに、市民の有志が立ち上がり、「夜店(土曜縁日)」の復活や、まちづくり活動を行うNPO法人の設立など、市民が中心市街地の活性化に取り組む環境が醸成された。

当協議会では、このように委員会活動を中心に、当初基本計画に予定されていない様々な事業を展開し、積極的に中心市街地の活性化に取り組み、大きな成果をあげることができた。

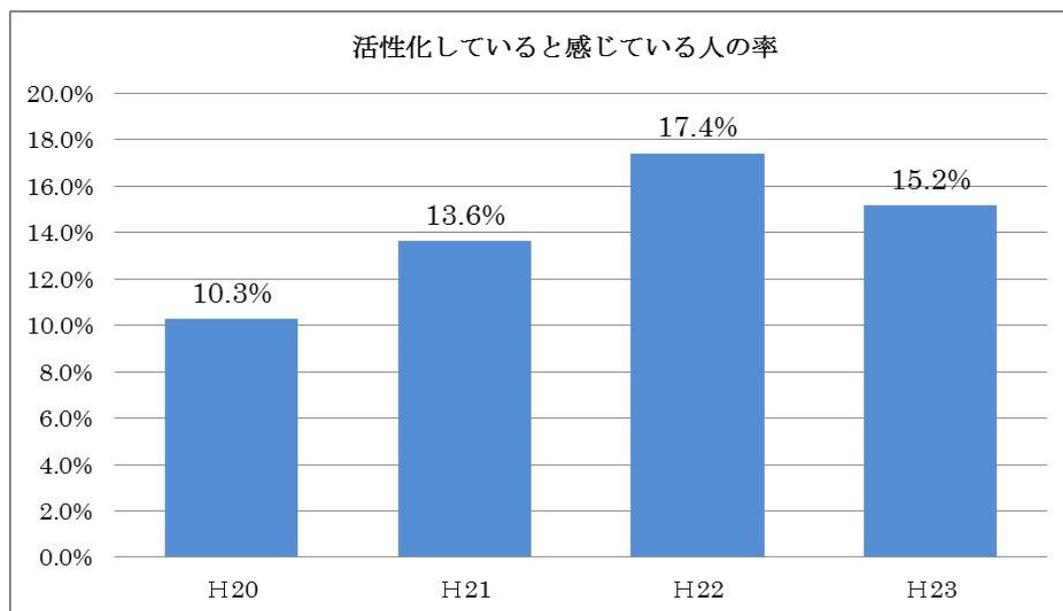
府中市中心市街地活性化基本計画で予定した事業が概ね実施できたことにより、人通りも増加し、賑わいを見せ、中心市街地の活性化に一定の成果を残すことができた。今後、更なるステップアップのためには、JR府中駅の南側地区の賑わいを増大させ、今回の基本計画で中心的に取り組んだ北側地区の賑わいを維持し、JR府中駅の南北が賑わうまちづくりが必要である。

計画期間は終了したが、現基本計画での成果と課題が見え、中心市街地活性化のために、引き続き、官民一体となって様々な施策を計画し実施しなくてはならない。そのために、第2期中心市街地活性化基本計画の認定は不可欠であり、早急に認定を目指すことが、必要だと考えられる。

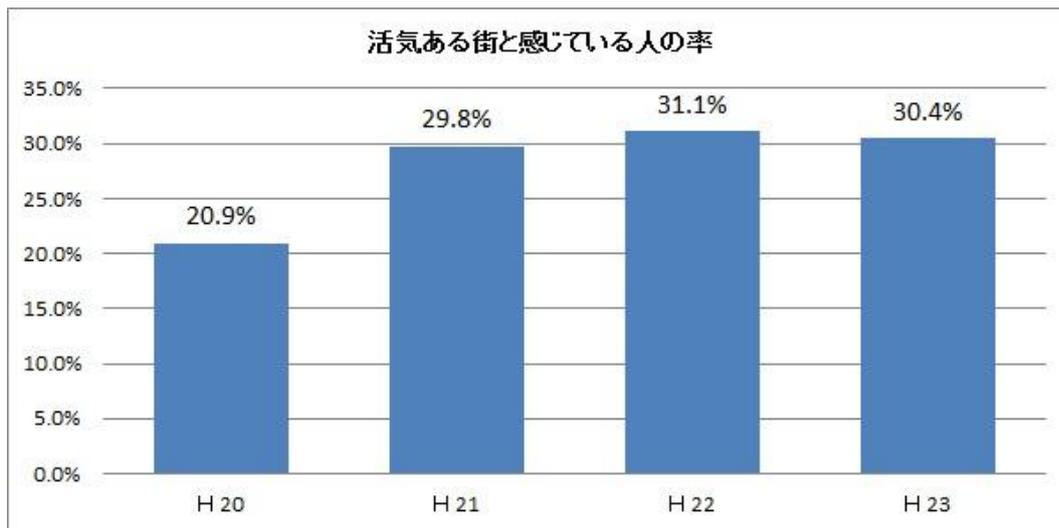
5. 市民意識の変化

住民アンケートによって住民意識の変化を把握した。毎年アンケートを実施し、次の3点について前年と比べてどうか回答してもらい、住民の意識の変化を調査した。

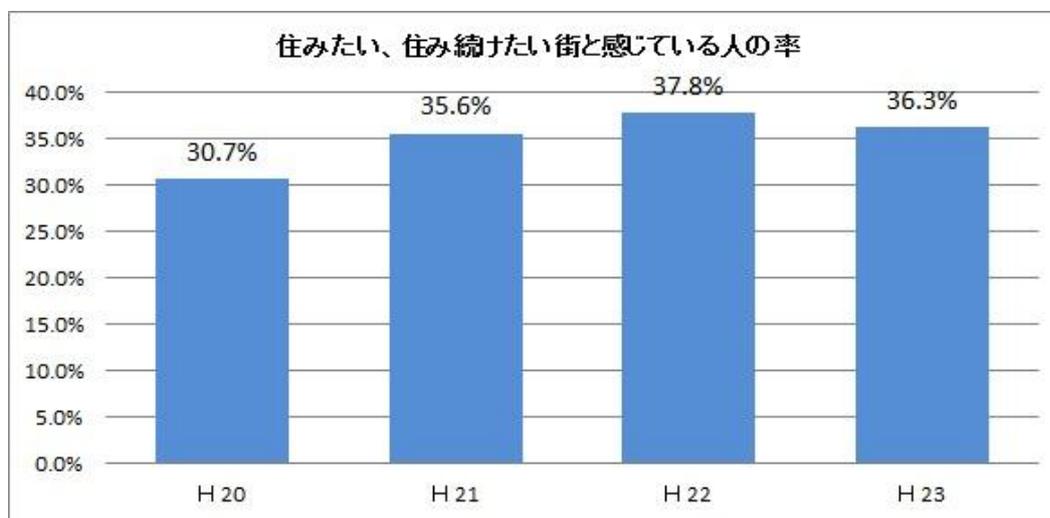
問① 1年前と比べて中心市街地は、活性化していると思いますか。



問② : ボランティアなどが協力してイベントや文化活動を行っている活気ある街だと思いませんか。



問③：住みたい街、又はこれからも住みたい街ですか。



アンケート結果を検査すると次のように推察出来る。

中心市街地が、年々活性化していると感じている住民が増えていることが伺える。同様に、「活気あるまち」、「これからも住み続けたいまち」と感じている住民が増えており、言い換えれば住民満足度が向上していると言える。要因として考えられるのは、基本計画に掲げた各事業が順調に進み、住民の目に成果が見えているからだと推測される。

今後、更なる向上を目指し、次の施策を検討、実施する必要がある。

6. 今後の取組

中心市街地活性化基本計画の実施によって、「賑わいの創出」効果が生まれ、まちなかに人が集まり、笑顔があふれ、活気がみなぎっている感が強い。目標に対する成果も得ることが出来、効果は大きい。計画期間は終了したが、「賑わいの創出」「安心して歩いて暮らせる地域の形成」は、府中市の最重要課題であるため、今後、更なる活性化施策が必要であり、第2期の中心市街地活性化基本計画の認定・実施によって、賑わいある街を創造する。

具体的には、JR福塩線を挟んだ駅南地区に主眼を置いた計画を策定する予定である。本市中心市街地は、JR福塩線を挟んだ駅北地区と南地区から形成されており、第1期計画では、北地区に主眼をお

いた様々な施策を計画・実施し、効果を挙げることが出来た。そこから2期へのステップアップとして、駅南地区の賑わいを創出し、安心・安全に歩ける歩行者ネットワークを整備し、駅周辺の集客を更に広げる。

また、1期計画で重点を置いた駅北地区においても、引き続き回遊性向上のための事業実施等、1期計画で成果を出した施設の更なる利用拡充施策を実施する。

駅北地区と駅南地区が相互に活気づき、将来的には府中駅を中心とする歩行者ネットワークがスムーズに接続されることにより、まちなかの回遊性を更に向上させ、中心市街地に賑わいを生み出し、まちなかの魅力発信を行う。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいの創出による市民や来街者が集い交流する魅力ある中心市街地の形成	「歩行者・自転車通行量」	4,284 人 (H18)	5,600 人 (H23)	5,818 人 (H23)	H23.11	A
安心して便利に歩いて暮らせる中心市街地の形成	「商業集積地域の商店の数」	256 (H18)	256 (H23)	257 (H23)	H23.12	A
	「商業集積地域の商店の質」	3.1 点 (H19)	3.1 点 (H23)	3.6 点 (H23)	H23.12	C
	「人口動態(社会動態)」	-49 人 (H12~H17) 【平均値】	±0 人以上 (H19~H23) 【平均値】	-42 人 (H19~H23) 【平均値】	H24.3	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

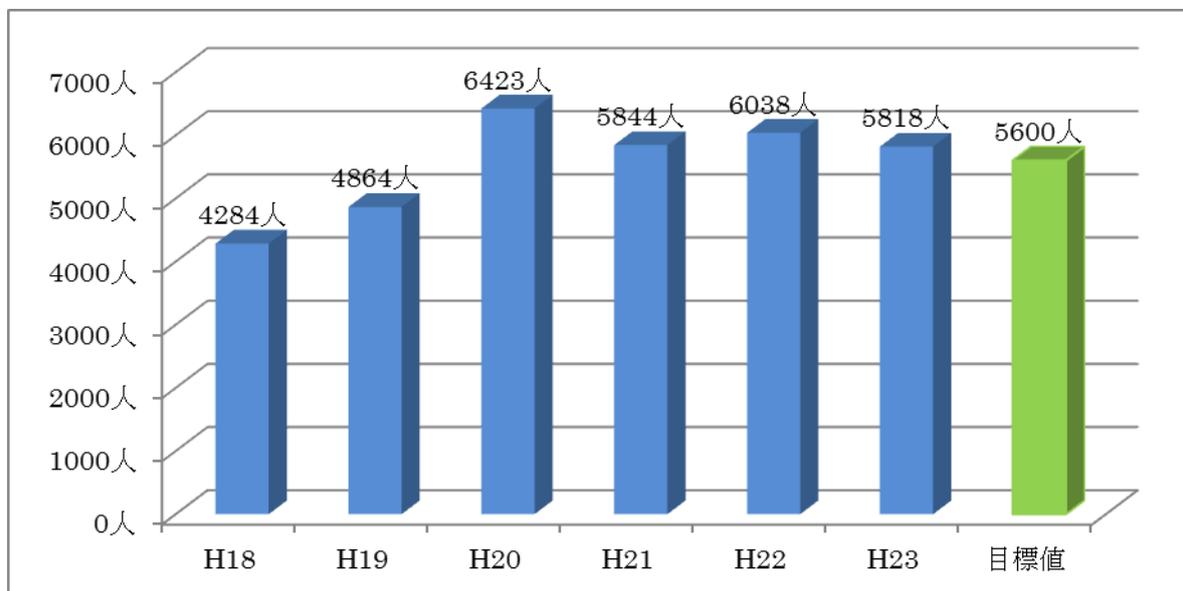
個別目標

目標「賑わいの創出による市民や来街者が集い交流する魅力ある中心市街地の形成」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P39 (1) 1) ~P40 参照

1. 調査結果の推移

中心市街地の歩行者・自転車通行量（平日）



年 (月・日)	H18 1/21	H19 (11/20・21)	H20 (10/1・2)	H21 (10/20・21)	H22 (11/15・16)	H23 (11/21・22)	H23 (目標値)
歩行者・自転車通行量	(基準年値) 4,284人	4,864人	6,423人	5,844人	6,038人	5,818人	(目標値) 5,600人

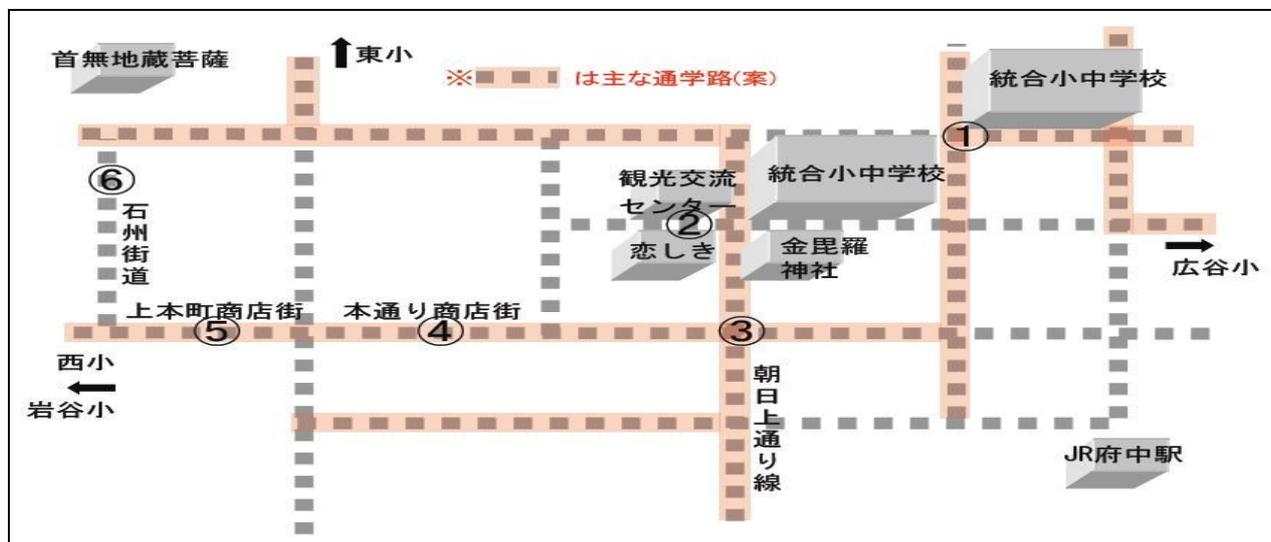
※調査方法；歩行者・自転車通行量調査（平日 7：00～19：00）

※調査月；10月から11月の間でイベント開催時期の影響を受けない平日を選択

※調査主体；府中市

※調査対象；歩行者・自転車通行者

歩行者・自転車通行量調査地点（6地点）



目標では、平成23年時の歩行者・自転車通行量を約1,300人増加させ、5,600人の通行量としていたが、218人上回り、5,818人の通行量となり、目標達成することが出来た。

目標達成の要因として、統合小中学校整備事業や「恋しき」再生・保存事業の効果は大きく、更に、他の事業との相乗効果によって、目標達成することが出来た。

「恋しき」では、リニューアルオープンをPRするイベントや日本庭園を利用した結婚式や茶会等の年間を通じて様々なイベントを開催したことにより、イベントを実施した日だけでなく年間を通じて、楽しめる施設であることが広くPRされ、多くの人を訪れ、賑わいが生まれた。

また、隣接する多目的広場の整備や周辺の道路整備によって来訪者の利便性は向上し、市民だけでなく市外からも多くの人を訪れる地域となった。

その他にも石州街道・出口地区街なみ環境整備事業によって、街なみ散策を楽しむ場が整備できたことにより週末には、市外からの来訪者も訪れるなど、賑わい創出により通行量が増加した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 統合小中学校整備事業（府中市）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名：まちづくり交付金 支援期間：平成17～19年度 支援措置名：公立学校施設整備国庫負担事業、安心・安全な学校づくり 交付金、社会福祉施設等(放課後児童クラブ)整備費補助金 支援期間：平成18～19年度
事業開始・完了 時期	開始：平成16年度 完了：平成19年度
事業概要	中心市街地の周辺部にある4小学校(広谷・岩谷・西・東)と区域内にある 中学校(第二)を小中一体型校舎として、新たに区域内の中心部である、J T府中工場跡地に整備する。
目標値・最新値	目標値：1,146人増※(全体)約1,300人増(5,600人) 最新値：1,534人増(5,818人)
達成状況	平成20年3月事業完了・平成20年4月開校 小学生の通学路として周辺の道路整備が行われ、歩行者及び自転車の安全 と通行量増加の目標達成に大きく寄与した。
達成した(出来 なかった)理由	周辺に位置していた、4小学校とまちなかにあった中学校を統合したこと により、まちなかへ児童生徒が通学し、通行量の増加が図られた。
計画終了後の状 況(事業効果)	府中学園の教育環境の改善によって、市内外からも注目され、学区外から の入学や転居(市外転入含む)を希望される方が増え、通行量を増加させ た。また、まちなかの賑わいの拠点となり、まちの活力を生み出した。
統合小中学校整 備事業の今後	【実施済み】

ついて	
-----	--

②. 観光交流センター事業（府中市）

支援措置名及び 支援期間	民間
事業開始・完了 時期	未実施
事業概要	「恋しき」、統合小中学校が立地する、府中市の「顔」となる中心市街地に、産業のまちをアピールする場として、また、来街者や地域住民の交流の拠点として、観光交流センターを整備する。
目標値・最新値	目標値:25 人増
達成状況	未実施
達成した（出来 なかった）理由	事業主体の調整に時間を要し、遅延した。平成24年度事業完了を目指す。
計画終了後の状 況（事業効果）	未実施
観光交流センタ ー事業の今後に ついて	基本計画期間内での事業実施には至らなかったが、平成24年度中の事業完了を目指す。 再生・保存した「恋しき」内の一部に、情報発信機能と休憩機能を兼ねそそえた施設を立地することにより、「恋しき」の賑わい創出効果による集客を促し、回遊性を向上させる。

③. 恋しき保存・再生事業（㈱恋しき）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名：民間都市再生整備機構による民間都市開発事業の立ち上げ 支援 支援期間：平成19年度
事業開始・完了 時期	開始：平成19年度 完了：平成19年度
事業概要	国登録の有形文化財であり、かつて多くの文人・著名人が訪れた老舗割烹旅館で、交流・社交の場として賑わった。平成2年に惜しまれつつ廃業したが、地元有志の呼びかけにより、「㈱恋しき」を設立。多くの市民・ファンの要望により、リニューアルオープンした。
目標値・最新値	目標値：75人増 最新値：【再掲】①統合小中学校整備事業に記載
達成状況	「恋しき」の再生実現によって、多くの来訪者を集め、まちなかの賑わいを創出し、目標達成に寄与した。

達成した（出来なかった）理由	「恋しき」の再生実現によって、中心市街地の魅力の向上が図られ、集客と回遊性の拠点として位置付けることができ、通行量が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	(株)恋しきのオープン以降、約1年の間で約7万1千人の人が訪れるなど、中心市街地の交流・社交の拠点として、賑わいの創出に大きく寄与している。
恋しき保存・再生事業の今後について	【実施済み】

3.今後について

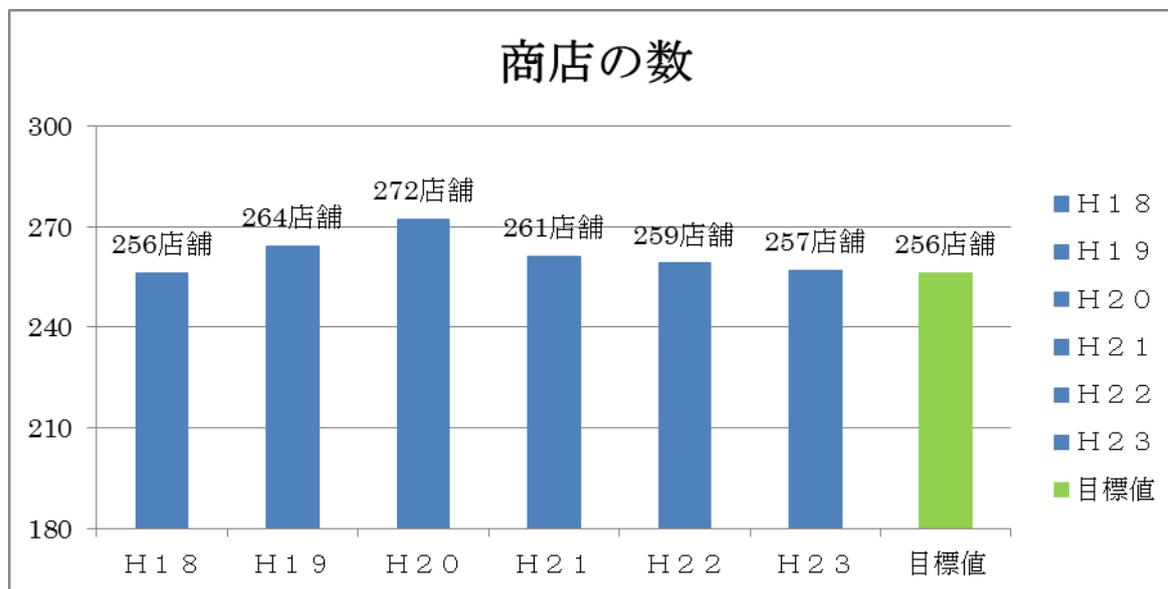
主要事業3点のうち、「観光交流センター事業」が未実施であったが、目標を達成することが出来た。未実施事業を期間内に実施完了していれば、更に大きな成果が出たと考えられる。未実施の事業については、計画期間は終了したが、平成24年度中の事業完成を目指す。

個別目標

目標「安心して便利に歩いて暮らせる中心市街地の形成」

「商業集積地域の商店の数と質」※目標設定の考え方基本計画 P40 (2) 1) ~P40 参照

1. 調査結果の推移

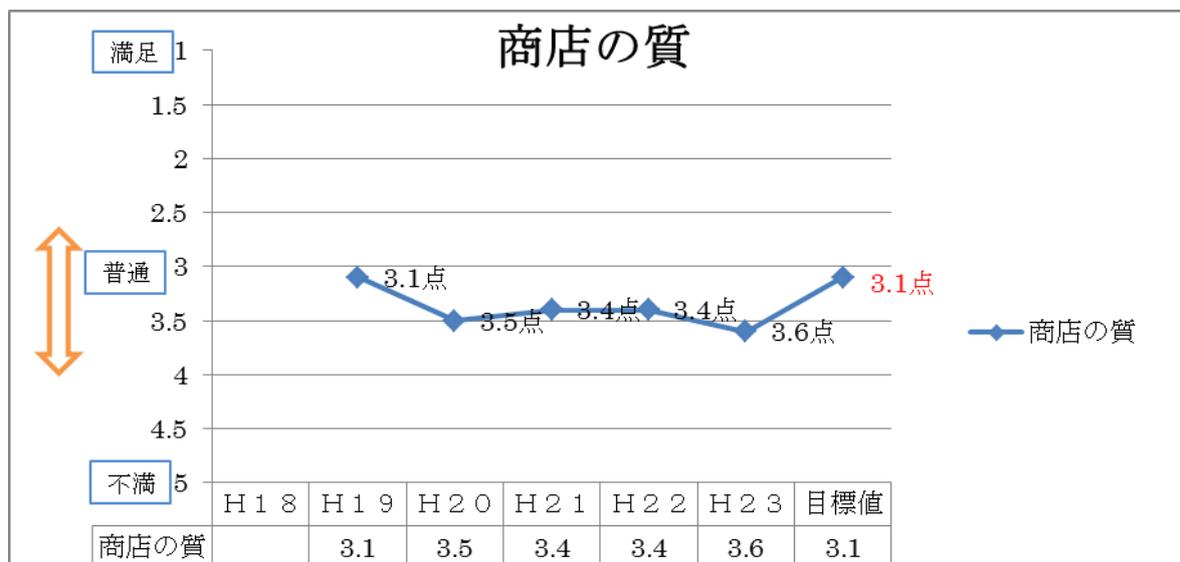


※調査方法；現地確認調査

※調査月；年1回調査（11月）

※調査主体；府中市

※調査対象；中心市街地の調査区域内（商業集積地区）



※調査方法；基本計画区域内住民アンケート

※調査月；年1回調査（10月）

※調査主体；府中市

※調査対象；基本計画区域内住民

目標では、年々減少している商業集積地(商店街とその周辺地域)の商店の数を平成23年時に現状の256店舗と同数とする目標に対し、257店舗という結果となり、目標達成した。

目標達成の要因として、チャレンジショップ事業により、新規創業も3店舗行われ、営業を継続されており、商店街の空き店舗対策にも繋がった。また、賑わいの創出効果も非常に大きく、歩行者・自転車通行量の増加は、商業集積地に出店候補地の魅力となり、新規創業者の誘致となり、目標達成に寄与した。しかし、店主の高齢化は年々深刻な状況となり、更に、後継者不足と重なり、閉店を余儀なくされる店舗が増加することが予想される。今後は、第1期期間中に創設した、まちなか活性化支援制度を活用し、現在ある店舗の営業継続の支援と新規店舗誘致を行い、商店数の更なる増加を目指す取り組みが必要である。

一方の商店の質に関しては、目標とした3.1点の維持は、最終的に3.6点となり、目標達成には至らなかった。要因としては、住民アンケートを毎年実施したためにマンネリ化し、アンケートに対する嫌悪感がストレートに書かれた意見が目立つ結果となった。また、回答者も家の世帯主である60歳以上の男性にばかりに集中し幅広い年齢層からの回答を得ることが出来ず、十分な意見把握にならなかったことが原因と考えられる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. チャレンジショップ/ものづくり商人育成支援塾事業（府中商工会議所ほか）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名：戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業 支 援 期 間：平成19～21年度
事業開始・完了 時期	開始：平成19年度 完了：平成23年度
事業概要	空き店舗を活用し、創業希望者に経営指導、家賃補助などの支援をし、独立開業を促進。
目標値・最新値	最新値：商店数1軒増 商店の質 3.6 点
達成状況	商店の数については、後継者問題等で減少傾向にあった店舗数を1軒増まで回復し、目標を達成した。 しかし、商店の質については達成には至らなかった。
達成した（出来 なかった）理由	商店の数については、チャレンジショップの他、「恋しき」の開業、統合小中学校整備事業の波及効果により、廃業を上回る新規出店がみられたため目標を達成した。 しかし、商店の質については、アンケートの主旨に対する理解が得にくかったためか、満足度の達成には至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	店舗数の増加により、まちなかの賑わいが徐々にではあるが再生されている。しかし、依然として店主の高齢化や後継者問題は深刻であるが、イベント等を継続するなどの取り組みを行うことで、商店数の増加や質の向上が図

	れるものである。
チャレンジショップ/ものづくり商人育成支援塾事業の今後について	操業を目指す人にとって有効的な支援策であり、創業者の増加は、質の向上にも繋がる有効施策であるため、今後も検討する。

②. 【追加】府中ファクトリー～府中まちなか活性化事業（中心市街地活性化協議会ほか）

支援措置名及び支援期間	支援措置名：戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業 支援期間：平成21～23年度
事業開始・完了時期	開始：平成16年度 完了：平成23年度
事業概要	商業、観光、教育、企業マーケティングなどのソフト事業をイベント化し、総合的に実施
目標値・最新値	最新値：【再掲】①チャレンジショップ/ものづくり商人育成支援塾事業に記載
達成状況	【再掲】①チャレンジショップ/ものづくり商人育成支援塾事業に記載
達成した（出来なかった）理由	【再掲】①チャレンジショップ/ものづくり商人育成支援塾事業に記載
計画終了後の状況（事業効果）	支援を行ったイベントは、集客力やまちのPR力は、十分なイベントへ成長した。こうした取り組みを行うことで商店数の増加や質の向上が図れるものである。
府中ファクトリー～府中まちなか活性化事業の今後について	イベントの検証や工夫を行い、更なる成長を目指し、今後も実施する。

3.今後について

計画された事業は、全て実施された。目標とした商店の数は目標と達成することが出来たが、質に関しては目標を達成することが出来なかった。商店の数も、商店主の高齢化と後継者不足は深刻な問題である。今後は、府中市まちなか活性化支援制度の活用等により、継続した取り組みが必要である。

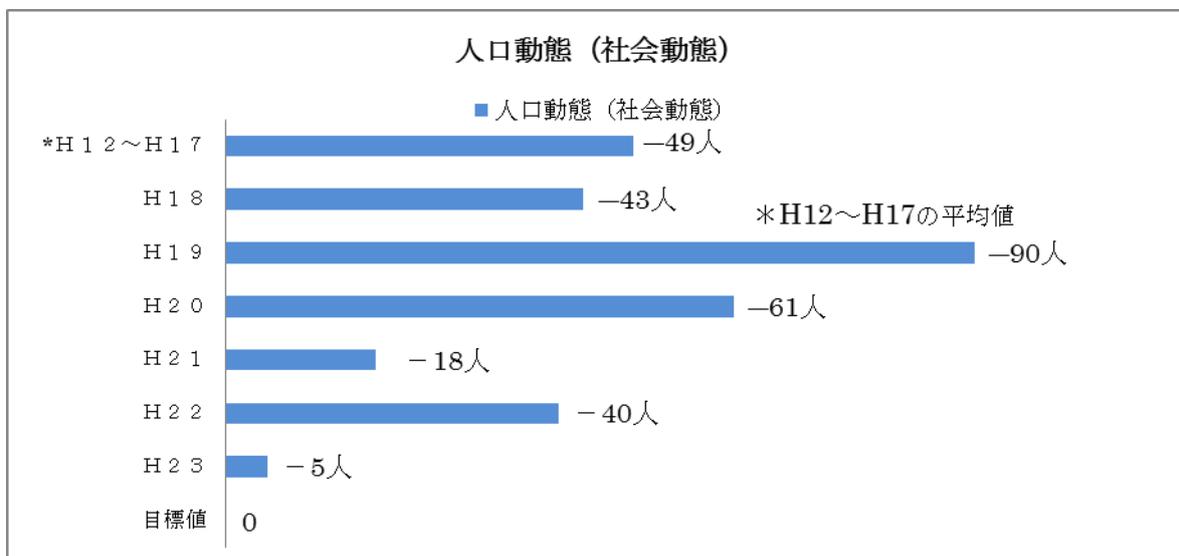
一方で、商店の質については、目標達成に至らなかったが、中心市街地の活性化のために、目標達成は不可欠であり、今後は寄せられた意見を参考に実施方法、数値目標の設定の検討を行い、第2期基本計画の認定を目指す。

個別目標

目標「安心して便利に歩いて暮らせる中心市街地の形成」

「人口動態（社会動態）」※目標設定の考え方基本計画 P40（2）2）～P40 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法；住民登録（異動）調査

※調査月；翌年度4月

※調査主体；府中市

※調査対象；基本計画区域内（中心市街地を構成する府中町、出口町、府川町元町）

目標では、計画期間前の平成12年度から平成17年度までの平均人口動態(社会動態)49人減から、平成19年度から平成23年度までの計画期間の平均人口動態(社会動態)を±0 にすることとしていたが、マイナス42人といった結果となり、目標達成には至らなかった。

平均値だけに着目すると改善度はわずかしか見えないが、直近である平成23年度の値に着目すると、大きく改善しマイナス5人までに改善されてきた。改善要因には、いろいろとあるが大きな要因としては、分譲マンションの建設事業が上がる。マンションは、平成20年2月に完成、3月供給開始となり平成21年度には完売し、多くの世帯が移り住み、人口動態(社会動態)も平成21年度には、マイナス18人と大きく改善している。マンションに移り住んだ多くの世帯は、小学校へ通う前の子供がいる世帯であった。このことは、統合小中学校「府中学園」の教育環境に対する市民の期待度の高さを示しており、府中学園周辺の居住に対する需要が高まったと言え、地区外ではあるが、隣接地で府中学園の通学圏内に同じようにマンションの建設があり、まちなか居住に大きく寄与している。

その他に、「恋しき」のリニューアルオープンやまちなかでの様々なイベントによる賑わい効果も大きく、各事業の相乗効果によって改善に繋がったが、目標達成には至らなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 恋しき保存・再生事業（株恋しき）

支援措置名及び 支援期間	【再掲】P9 参照
事業開始・完了 時期	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
目標値・最新値	目標値：6人の押上 ※全体±0(基準値：-49人) 最新値：-42人(全体)
達成状況	「恋しき」の再生により、まちなかに賑わいを生み、賑わいが住環境の便利さをPRすることで、まちなか居住の魅力を高め、数値の改善がみられたが、目標達成には至らなかった。
達成した（出来 なかった）理由	「恋しき」の再生は、まちなかに賑わいを生み出し、まちなか居住への魅力を高め、人口動態(社会動態)の押上に寄与したが、数値目標には、至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	賑わい効果により、住環境整備の需要を高め、宅地分譲が実施される等の成果がみられる。
恋しき保存・再 生事業の今後に ついて	【実施済み】

②. 統合小中学校整備事業（府中市）

支援措置名及び 支援期間	【再掲】P8 参照
事業開始・完了 時期	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
目標値・最新値	目標値：29人の押上 最新値：【再掲】①. 恋しき保存・再生事業（榊恋しき）に記載
達成状況	府中学園の教育環境は、学区内居住の魅力を十分に発信し、住環境整備の需要を高め、数値の改善がみられたが、目標達成には至らなかった。
達成した（出来 なかった）理由	府中学園の教育環境を望む声が多く、学区内へ転居のために住環境の整備に対する需要が高まり、人口動態(社会動態)の押上に寄与したが、数値目標には、至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	住環境整備の需要を高めたことにより、学校周辺には、宅地分譲が実施される等の成果がみられる。
統合小中学校整 備事業の今後に ついて	【実施済み】

ついて

③. フローレンス府中グランドアーク分譲マンション建設事業（民間）

支援措置名及び 支援期間	民間
事業開始・完了 時期	開始：平成18年度 完了：平成19年度
事業概要	区域内の商業地域に高層分譲マンション(52 戸)の建設し、まちなか居住を推進する事業
目標値・最新値	目標値：14人の押上 最新値：【再掲】①. 恋しき保存・再生事業（株恋しき）に記載
達成状況	平成21年度で完売となっている。マンション入居者のほとんどが地区外からの入居で数値の改善がみられたが、目標達成には至らなかった。
達成した（出来 なかった）理由	統合小中学校「府中学園」に近い立地環境が魅力となり、事業実施され、人口動態(社会動態)の押上に寄与したが、数値目標には、至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	分譲は、順調に進み完売となっている。早期の完売は、住環境整備の需要の高さを示している。
フローレンス府 中グランドア ーク分譲マンシ ョン建設事業の今 後について	【実施済み】

3.今後について

民間事業者による高層分譲マンションが整備され、主要な基本計画掲載事業は実施されたが、目標数値の達成は出来なかった。しかし、直近の平成23年度数値においては、マイナス5人となり効果が出たことが伺える。計画期間が終了した現在では、基準値はクリアしているが、目標達成には至っていない状態ではあり、今後の取組によっては十分に目標を達成できると感じている。

今後も、まちなかの魅力の向上を引き続き行うことで、達成を目指す。